

資料

山口県木屋川工業用水道事業の紹介

○ 事業の主旨

下関地区は、県下最大の都市で、古くから大陸あるいは九州への海陸交通の要衝として栄え、水産物加工、造船、鉄鋼、ゴム製造等の企業が立地している。

下関市は、全国屈指の漁港及び海陸交通の要衝として発展し、鉄道、船舶、工場への給水量が日増しに増加した。また、昭和8年頃から近隣の町村を吸収合併し、人口が増加するなど市政も発展の一途を辿り、木屋川下流域においては、埋め立てによる工業用地の造成が開始された。

このような状況の中、日増しに逼迫する水不足の解決を目的に木屋川ダムに水源を求め、木屋川工業用水道事業を開始し、工業用水を下関地域に供給している。

○ 事業の経緯

下関地域は、古くから交通の要衝として発展し、鉄道、船舶、工場、人口の増加により、水不足に見舞われた。用水に対する水源としては、半島状のこの地域では水源河川に乏しく、瀬戸内海に注ぐ二級河川木屋川に求めるしかなく、利水計画に基づき、建設に至ったものである。

建設工事は、昭和15年に着工し、昭和21年には取水堰堤及び送水トンネルを完成させ、下関市に108,000m³/日の給水を開始したが、工程の6割程度進捗していた木屋川ダムの築造は、戦争の激化に伴い、資材、労力が不足したため、工事の中止を余儀なくされた。

その後、昭和25年にダムの築造は再開され、昭和30年3月に完成した。

給水量は、下関市108,000m³/日、(株)神戸製鋼所24,000m³/日、残量の24,000m³/日は、木屋川干拓開田計画のかんがい用水として県が保有した。

昭和40年代に入り、社会経済情勢の変化に伴い、木屋川干拓開田計画の廃止が確定し、既設工場の増産計画、新規企業の進出に伴う工業用水の需要の増大が生じてきたため、県保有のかんがい用水を工業用水に転用することとなり、利水計画変更を行い、昭和44年から三カ年計画で工業用水の増量工事に着手した。

増量工事は、既設の分水槽から下関市浄水場までのバイパス管の布設及び既設送水管の増設で昭和47年3月に完成した。

現在、当工業用水道事業は、施設の経年劣化による著しい老朽化が見られるため、平成15年度から施設整備を行っている。

今後とも、県産業の発展に寄与する地域として重要基盤である工業用水の安定供給に努めていく。

○ ユーザーの概要

(平成19年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
鉄鋼	1	30,000
化学	1	1,800
その他	6	114,360
合計	8	146,160

○ 工業用水道概要図



○ 工業用水道施設の概要

都市用水の水源は、二級河川木屋川上流に建設された木屋川ダムとし、下流の湯の原ダムで取水し、156,000m³/日の給水能力を有している。

送水路は約17km（湯の原ダム～下関市長府）

となっている。

○ 事業の特徴

- ・各ユーザーへの配水は原水供給である。また、ホテルが生育するきれいな河川から取水をしている。